小5理科 もののとけ方 No.2

答えの 選択肢の ○を 1つだけ ぬる。
まちがえたら けしゴムで けす。

なまえ

出席番号　　必要な人は書く

問1 食塩やミョウバンなどを水にとかしていくとき、一定の量の水にとけるものの量にはどのようなきまりがありますか。

- ○ とける量には限界（かぎり）がある。
- ○ 水が少しでもあれば、すべてのものが一瞬でとける。
- ○ どんなにたくさん入れても無限にとけ続ける。
- ○ ものを細かくくだけば、いくらでも無限にとける。

問2 食塩、ホウ酸、ミョウバンをそれぞれ水に溶かして結晶を取り出したとき、それらの結晶の形について正しく説明しているものはどれですか。

- ○ 溶かす水の量によって、同じ物質でも形が変わる。
- ○ どの物質から取り出しても、すべて同じ形になる。
- ○ 溶けている物質の種類によって、それぞれ形が異なる。
- ○ 溶かすときの温度によって、同じ物質でも形が変わる。

問3 ミョウバンを水にとかすとき、水の温度を高くしていくと、ミョウバンが水にとける量はどのように変化しますか。

- ○ とけなくなってすべて固まる
- ○ 少しだけ減る
- ○ まったく変わらない
- ○ 非常に大きく増える

問4 100gの水に、20gの砂糖をすべてとかして砂糖水を作りました。できあがった砂糖水の重さは何gですか。

- ○ 80g
- ○ 120g
- ○ 100g
- ○ 200g

問5 メスシリンダーで液体の体積をはかるとき、目もりはどの方向から見なければなりませんか。

- ○ 斜め上から
- ○ 真上から
- ○ 真横から
- ○ 斜め下から

問6 じょう発皿は、どのような実験をするときに水溶液を入れるために使いますか。

- ○ 水溶液を冷やして結晶を取り出すとき
- ○ 水溶液をろ紙でこして不純物を取り除くとき
- ○ 水溶液に別の液体を混ぜて色を変えるとき
- ○ 水溶液を熱して水をじょう発させるとき

問7 水にものがとけて、全体に広がり、すき通った状態になっている液のことを何といいますか。

- ○ うわずみ液
- ○ どろ水
- ○ 水よう液
- ○ にじみ水

問8 冷たい水に食塩をこれ以上とけないところまでとかした後、水の温度を高くすると、食塩はさらにどのようにとけますか。

- ○ とけていた食塩が消えてなくなる
- ○ さらに大量に付け足してとける
- ○ とけていた食塩がすべて固まって出てくる
- ○ わずかしか付け足してとけない

問9 上皿てんびんを使って正しく重さをはかるために、皿に何も載せていないとき、針がどのように動くように調節しなければなりませんか。

- ○ 針が左側だけに大きく振れるようにする
- ○ 針が左右に同じ幅で振れるようにする
- ○ 針が中央で完全に止まって動かないようにする
- ○ 針が右側だけに大きく振れるようにする

問10 ミョウバンを水にとかすとき、水の温度を上げると、とける量はどのようになりますか。

- ○ とける量が減る
- ○ とける量は変わらない
- ○ とける量が増える
- ○ まったく水にとけなくなる

問11 同じ温度で同じ量の水に、食塩とミョウバンをそれぞれとけるだけとかしたとき、とける量について正しく説明しているものはどれですか。

- ○ どちらも無限に溶け続ける
- ○ どちらも水にはまったく溶けない
- ○ 食塩とミョウバンは、どちらも同じ量だけとける
- ○ 食塩とミョウバンで、とける量はそれぞれちがう

問12 同じ量の水にとけるものの量が、とかすものの種類によってちがうことを確かめる実験として、正しいものはどれですか。

- ○ 食塩とミョウバンを混ぜて水に入れ、どちらが先にとけるか比べる
- ○ 同じ量と温度の水に、食塩とミョウバンをそれぞれ少しずつ入れて、とける量を比べる
- ○ 水の温度を変えて、ミョウバンがとける速さを比べる
- ○ 水の量を変えて、同じ量の食塩がとける時間を比べる

問13 水に物質が溶けた液体のうち、色がついているものもついていないものもありますが、すべてに共通する特徴はどれですか。

- ○ あわがたくさん出ている
- ○ 白くにごっている
- ○ すき通って（とうめいになって）いる
- ○ 時間がたつと下にたまる

QRを 読んで 答え合わせ
答案を 撮って 自動採点
点数は マイページに ためよう